

9月21日(日)・大会2日目 10:45~12:15 (A会場:17510教室)(90分)

●セッション【7】

「ジョブ型人事が変える『組織と個人の関係』『日本経済』『日本社会』」

* 須田敏子(青山学院大学大学院国際マネジメント研究科 教授)

菱田直人 氏(KDDI 株式会社 執行役員 コーポレート総括本部 人事本部長)

平松浩樹 氏(富士通株式会社 取締役執行役員 専務 CHRO・最高人事責任者)

* セッション・リーダー

[概 要]

近年、注目を集めるジョブ型人事は、日本経済成長の起爆剤になると期待されています。しかし、世界的に非常にユニークな日本型人事に慣れ親しんだ日本において、ジョブ型人事にはさまざまな誤解があるようです。本セッションでは、まずセッション・リーダーの須田から話題提供を行います。続いて、ジョブ型人事の先進企業2社に実態報告をしていただき、最後にパネル・ディスカッションを行います。

[参加者へのメッセージ]

日本経済長期停滞の大きな要因が、長期雇用・年次管理・年功序列などの特色を有する日本型人事にあります。過度に「雇用を守る」との価値観が普及していたため、適正な人材流動化が実現しなかったことが、新たな技術や事業の開発・普及、事業構造の転換などに対する大きな阻害要因となっていたためです。そんな中、近年、急速に普及しているのがジョブ型人事です。ジョブ型人事によって、社員個人の知識・スキル・経験・行動などの人的要件の明確化・見える化・共有化が実現します。これにより、自律的人材開発、リスクリング、人材流動化などさまざまな変化が起こり、恒常的質上げも実現します。ジョブ型人事によって、日本も普通の国となり、他の多くの先進諸国のように経済成長を実現しましょう。

そのためには、まずジョブ型人事を正しく知ることが重要です。本セッションでは、ジョブ人事導入企業の実態をご紹介いただき、ジョブ型人事の具体的内容やジョブ型人事がもたらす変化など知っていただければと存じます。ぜひ、多くの学会員の皆様にご参加いただければ幸いです。